

《現場紹介》

諏訪湖流域下水道白樺湖幹線1工区

名古屋支店 加藤 友康

本工事は現在、白樺湖の水源を白樺湖畔の処理場で浄化し川へ放流をしています。白樺湖の処理場の老朽化に伴い下水道管を布設し諏訪湖にある処理場までの全長14kmを導管する工事の第1期目になります。

発注業者は長野県諏訪湖流域建設事務所であり下水の工事が6年近く無かったそう。役所の土質柱状図では、N値 ≥ 50 以上、最大玉石径 ≥ 1000 mm以上、二軸圧縮強度 ≥ 200 MPa²前後の巨礫の地山で、推進工法はエースモール工法(中間立坑を掘削し面盤交換アリ)で地山に対応していましたが立坑を掘るに当たり、地盤改良工の注入材料の選定が懸濁型であり、玉石地盤では削孔が出来ない。地盤が隆起するなどの懸念がありましたので、削孔に関してはロータリーパーカッションにて削孔し注入孔を砂利に置き換え、注入材を溶液型の複相へ1つずつ変更するなど工法変更を進めていきました。又、今年7月に1回開催される御柱祭とも施工時期が重なり3月からの工期でしたが本格的に施工スタートが出来たのが5月に入ってからとなりました。

いざ施工に入りますと諏訪地域の主要道路上での施工であり毎日朝晩工事をしていなくても渋滞、夏休みの時期となりますと1日中渋滞と、非常に交通量の多い道路での施工のため、第3者対策、車両搬入経路などの遵守など少々気を使う場面が多々ありました。現場代理人の小林様のご指導・ご協力と施工をしていただいた皆様のご努力で無事故・無災害にて工事が完了し感謝申し上げます。



先導体据付

【工事概要】(敬称略)

施主：長野県諏訪建設事務所 流域下水道課
元請：スワテック建設株式会社
工法(規模)：管きょ工
(推進延長=185.73m 1SP)
地盤改良工
(複相=125,000リットル、先行削孔=900m)



パーカッション据付



元請所長(右から4人目、小林早富所長)